

| | | | | |
|-------|-----------------|--------|---------------------------|----------|
| 授業科目名 | 成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期) | 担当教員 | ◎路 璐、岡本 明美、 松本 幸枝、何 雨竹 | 科目ナンバリング |
| 必修 | 開講年次：3年後期 | 単位：3単位 | 授業形態：臨地実習135時間 | NS368 |

【授業概要】

これまでの学びや、「成人看護学」で学んだ講義、演習を臨地実習の中で実践として活用し、侵襲的治療を受けたり、周手術期にある人を援助する能力を養うとともに、実習を通して自己の看護観・倫理観を高める。

【達成目標】

1. 成人期にある対象者が手術を受けるために必要な検査、治療、処置の内容を理解し、対象者が安全に手術を受けることができるように必要な方法、技術を習得する。
2. 治療・手術による形態的变化や障害を理解し、対象者の生体侵襲(手術、麻酔による影響など)および身体的状況と結びつけて捉え、個別的な看護を実践できる。
3. 対象者の回復過程を理解し、社会復帰に向け心理、社会、身体的側面からの援助を他職種およびチームの一員として連携し、健康教育、退院指導を行うことができる。
4. 急性期にある看護過程を対象者を通して展開できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「成人看護学概論」、「慢性期成人看護援助論」、「急性期成人看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

受け持ち患者は手術を受ける患者(全身麻酔、腰椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔)を対象とする。

成人期の対象者のみでなく、高齢者も対象とする。

- ・ 1日目～3日目：急性期実習オリエンテーション、事例展開・技術練習
- ・ 4日目：手術室・ICU見学・配属病棟オリエンテーション
- ・ 5日目：臨地実習開始(シャドーイング)
- ・ 2週目～3週目：受け持ち患者が決定し情報収集、全体像の把握、看護計画の立案、患者へのケア、看護計画の修正、看護計画に基づいた援助・ケア、評価を行う
- 2週目の金曜日に中間カンファレンス、中間評価を行う
- 3週目の木曜日に最終カンファレンス、最終評価を行う
- 3週目の金曜日に評価面接を行う

【教科書】

- ・ 佐藤まゆみ、林直子(2019)：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護、南江堂
- ・ 佐藤まゆみ、林直子(2019)：成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護、南江堂
- ・ 野崎まなみ、林直子、佐藤まゆみ他(2019)：成人看護学 成人看護技術、南江堂

【参考書】

- ・ 病気が見えるシリーズ

【評価方法・評価基準】

事前学習(10%)、目標評価(70%)、カンファレンス(10%)、課題レポート(10%)を総合して評価する

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習

- ・ 急性期成人看護援助論の授業内容：講義や演習で行った事例の復習をしておく。(2時間)
- ・ バイタルサインの測定や、フィジカルアセスメント、日常生活援助が実践できるように各自復習、練習をしておく。(2時間)

事後学習

- ・ その日に学んだ内容を振り返り、翌日の実習に生かせるようにする。(30分～1時間)
- ・ 実習が終了した学内実習日に、実習について自己の学びを振り返り、課題レポートとして記述する。(4時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に係る記録については成人看護学臨地実習Ⅱが終了後に学生個人に返却する。

【備考】

看護師としての臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。